

洗足学園音楽大学

ワールドミュージックコース サマーコンサート

World Music Course Summer Concert

【第1部】

作者不詳/ナイチンゲール
作者不詳/ドゥリュリーの和音
石川 菜々子 (ギター)
伊藤 陽夏 (ギター)

D.スカルラッティ/ソナタ 二短調 Kk.89
島田 龍輔 (マンドリン)
片山 柊 (バンドネオン)

G.ビゼー (山田武彦 編曲)/カルメン 第3幕への間奏曲
島田 龍輔 (マンドリン)
石川 菜々子 (ギター)
楊江 虎 (二胡)

R.カラーチェ/ボレロ Op.26
村山 実裕加 (マンドリン)
伊藤 陽夏 (ギター)

MD.プホル/ブエノスアイレス組曲より 第1楽章 Pompeya
小長井 翼 (マンドリン)
小林 愛美 (ギター)

山田武彦構成・補作/ユーラシアの響き2021
～洗足ワールド・ミュージック・コースのための～
小長井 翼 (マンドリン)
島田 龍輔 (マンドリン)
村山 実裕加 (マンドリン)
小林 愛美 (ギター)
石川 菜々子 (ギター)
伊藤 陽夏 (ギター)
中根 康美 (ギター)
片山 柊 (バンドネオン)
楊江 虎 (二胡)

【第2部】 フラメンコの音楽

TIENTO (ティエント)
ALEGRÍAS (アレグリアス)
SOLEA (ソレア)
BULERIA (ブレリア)

今田 央 (ギター)
小松 美保 (カンテ)

GUAJIRA (ゲアヒーラ)
SEVILLANAS (セビジャーナス)
RUMBA (ルンバ)

演奏：洗足学園音楽大学ワールドミュージックコース

2021.7/3 [土]

開演 | 15:00 開場 | 14:30

シルバーマウンテン 2F

△ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

■ 曲目解説

【第1部】

作者不詳／ナイチンゲール

作者不詳／ドゥリュリーの和音

リュートはルネサンスの時代にヨーロッパで盛んに演奏されていた。その黄金時代の1616年頃にイギリスで出版された、ジェン・ピッカリングリュート作品集（Jane Pickering's Lute Book）からの二重奏曲をギターで演奏する。二つの楽器が鳥（ナイチンゲール）の鳴き声を模したり、メロディがエコーで繰り返されるなど、対話をするように作られた美しい曲である。

D. スカルラッティ (1685-1757) / ソナタ ニ短調 Kk.89

ドメニコ・スカルラッティ(1685～1757)はナポリ生まれの作曲家で、非常に多くのチェンバロのための作品を書き残している。

今回演奏する Kk 89 のソナタも鍵盤楽器のための作品として今日まで伝わってきた作品だが、1980年代にパリの図書館から、この作品の写本がマンドリンと通奏低音のためのソナタとして見つかった以降、その編成でも盛んに演奏されるようになった。近年はスカルラッティのマンドリン作品集が録音されるなど、マンドリンの中で焦点の当たることの多い作曲家である。

Allegro-Grave-Allegro の三楽章形式、今回は第1楽章をお届けする。

G. ビゼー (1838-1875) [山田武彦 編曲] / カルメン第3幕への間奏曲

フランス・オペラとして最も人気のある「カルメン」の第3幕への前奏曲として知られるこの曲はもともと劇音楽「アルルの女」のために書かれたものである。フルートの美しい旋律と柔らかなハープのアルペジオで始まり、やがてクラリネット、イングリッシュ・ホルンなどの木管楽器や弦楽アンサンブルが加わりしっとりと曲が進んでいく。

二胡を独奏楽器としてチェロとピアノを加えた編成のために編曲したものを、今回はマンドリン、ギターに変えて演奏する。

R. カラーチェ (1863-1934) / ボレロ Op.26

ラファエレ・カラーチェは、ナポリの楽器製作一家に生まれ、現在まで約200年続く楽器ブランド“カラーチェ”の歴史の中でも巨匠として名を馳せている。また、家業の楽器製作のみならず、作曲、演奏、楽譜出版と多方面で優れた功績を残した。

ボレロはモーリス・ラヴェルの作品でも知られているが、元来スペイン起源の4分の3拍子の特徴とする舞曲である。このカラーチェの作品では、ダンスのリズムが効いた主題から始まり、ゆっくりと情熱的な旋律を経て主題が繰り返され、それぞれ緩急をつけて演奏される。本日演奏するマンドリンもカラーチェ社製のマンドリンである。世界中で愛されている“カラーチェ”の音楽、音色ともにお楽しみ頂きたい。

M.D.プホル (b.1957) / ブエノスアイレス組曲より 第1楽章 Pompeya

マキシモ・ディエゴ・プホル(1957～)はアルゼンチンのクラシックギター奏者、作曲家。彼の作品はアストル・ピアソラの影響を強く受けたものが多く、主にタンゴが使用されている。

この曲は Pompeya、Palermo、San Telmo、Microcentro の全4楽章で構成されており、それぞれタイトルはアルゼンチンの首都ブエノスアイレスにある街の名前に由来している。

本日演奏する Pompeya は、アルゼンチン南部に位置する、タンゴ発祥の地として知られている街である。

エネルギーに満ち溢れ、それでいてどこか哀愁の漂う冒頭のテーマ、緩やかに勢いを落とし、美しくも哀しげで孤独感溢れる中間部、そして再現部では冒頭の勢いを取り戻し、華やかな和音でフィニッシュを迎える。元々はフルート、ギターの編成で作られた曲であるが、本日はマンドリン、ギターの編成でお聞きいただく。

山田武彦構成・補作 / ユーラシアの響き 2021～洗足ワールド・ミュージック・コースのための～

ヨーロッパとアジアを合わせた意味を持つユーラシアの名のもとに、どちらかと言えば大陸の中央から東側で生まれた音楽を再構成した。A.ボロディンの「韃靼人の踊り」を始めとしてスラブ系の「二つのギター」「黒い瞳」「ステンカ・ラージン」「一週間」「カリンカ」、アゼルバイジャンその他の諸国がルーツを主張する「サリ・ゲリン (黄色い橋)」、ジョージア民謡「山岳地方の歌」、インド古典音楽の巨匠 M.ディクシタルの「ナッター音階によるマハガナパーティム」、アフガニスタン伝承音楽「雲雀は飛ぶ」、そして本学でも教鞭をとられている世界を代表する二胡奏者・許可氏の「風韻」などの曲の部分を繋いで歩むワールド・ワイドな音楽旅行曲集となっている。

【第2部】フラメンコの音楽

フラメンコの発祥は”Cante(カンテ)”と呼ばれる歌であった。今回はフラメンコの核であるカンテをメインにしたいと思う。

プログラムの各曲目の名前は形式名である。

フラメンコにはいわゆる曲名は存在しない。全てのフラメンコの楽曲は何らかの形式に分類される。各形式には固有のリズム、伝統的なメロディーがあり、特にメロディーに関しては新規に作曲されることはほぼ無い。またカンテが表現する内容は非常に抽象的なので個々の解説は音楽的内容に留める。

①TIENTO(ティエント)

2拍子系の Tango (フラメンコの形式の一つ) をゆっくりと歌ったもの。後半はテンポをあげ Tango にかわっていく。

”ミ”の旋法

②ALEGRÍAS(アレグリアス)

スペイン北部の民謡がフラメンコに取り入れられた曲。次のソレアと同じ3拍子系。長調。フラメンコの形式で長調や短調のものはほぼ民謡由来だと言える。

③SOLEA (ソレア)

フラメンコの歌いまわし、感情、全ての要素を備えているため、フラメンコの形式の中でも最重要と言える一つ。12拍子だがアクセントの位置が3,6,8,10,12にある。

”ミ”の旋法

④BULERIA (ブレリア)

先の SOLEA から派生した形式。フラメンコには珍しく歌詞、メロディーの制約がないが、リズムは厳格な中にも即興性が求められる。演者にとって試金石といえる。

⑤GUAJIRA (グアヒーラ)

キューバの民謡が逆輸入されてフラメンコ化した形式。長調だが中南米らしい曲調。
3拍子

⑥SEVILLANAS (セビジャーナス)

スペイン南部アンダルシア地方のセビージャ (セビリヤ) の街の春祭りで踊られる曲。
会場ではいたるところで老若男女、昼夜を問わずこれを踊る姿が見受けられる。
本来はフラメンコではないが踊りは華やかなのでフラメンコショーではよく踊られる。

⑦RUMBA (ルンバ)

グアヒーラと同じくキューバ由来の形式。ブレリアと同じくメロディーの制約がない。
今回は有名なギター曲とトラディショナルなメロディーをメドレーで演奏する。

■プロフィール

今田 央 (いまだ ひろし)

フォークギター、クラシックギターを経て大学在学中にフラメンコギターを始める。鈴木英夫、日野道生に師事。1992年よりスペイン留学。マドリッドにてホセ・ルイス・モントン、フラメンコ発祥の地と言われるヘレス・デ・ラ・フロンテーラにてパリージャ・デ・ヘレス、マノロ・サンルーカルに師事。1995年帰国。1996年日本フラメンコ協会第5回新人奨励賞を受賞。現在日本フラメンコ協会常任理事、ワールドミュージック概論の授業においてフラメンコの音楽を担当、洗足学園音楽大学講師。

小松 美保 (こまつ みほ)

静岡県沼津市出身。

東京外国語大学在学中にフラメンコに出会い、大学卒業後に本格的にフラメンコを学ぼうと決意。

2012年に初渡西し、約1年間、フラメンコや歌の基礎を学ぶ。その後渡西を繰り返しセビージャやヘレス・デ・ラ・フロンテーラに滞在。エスペランサ・フェルナンデス、ドロレス・アグヘータ等様々なアーティストに学ぶ。

現在は都内を中心にタブラオ（フラメンコを観ることができる酒場、レストラン）やイベント等で活動中。

中根 康美 (なかね やすみ)

ドイツ国立ケルン音大卒。東京国際ギターコンクール入賞。

文化庁の助成によるスクールコンサートや、NHK教育テレビに出演するなど、ソロ、アンサンブル、歌曲伴奏など幅広いジャンルで活動。

CD「吉松隆 優しき玩具」を現代ギター社より、フルートの故田中潤一氏との「タンゴの歴史」をアルケミスタより、ケルンギターカルテット「耳に残るは君の歌声」「君住む街角」をコジマ録音より各リリース。

GG学院、洗足学園音楽大学客員教授。

洗足学園ワールドミュージックコース

- 3年 小長井 翼 (マンドリン専攻)
小林 愛美 (クラシックギター専攻)
- 2年 石川 菜々子 (クラシックギター専攻)
島田 龍輔 (マンドリン専攻)
片山 柊 (バンドネオン専攻)
楊 江虎 (二胡専攻)
- 1年 伊藤 陽夏 (クラシックギター専攻)
村山 実裕加 (マンドリン専攻)

ワールドミュージックコース サマーコンサート

コンサート企画・アカデミックプロデューサー：大江 千佳子

指導教員：今田 央 中根 康美 山田 武彦

アカデミックコーディネーター：平峯 章生